

平成二十八年年度 金沢学院短期大学 入学試験問題（一般入試Ⅰ期）

国 語

（注意事項）

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は本文八ページであり、解答用紙は一枚である。
- 3 答えはすべて解答用紙の指定のあるところに記入すること。
- 4 問題冊子は、持ち帰ってもよい。

問題は、次のページからです。

一 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えなさい。

悪魔という言葉は字引にあるが、善魔という文字はいくら探しても見あたらぬ。しかし、今日、私たちは自分たちのまわりに悪魔よりも善魔をたくさんみるようである。

というのは、最近のオカルト・ブームにもかわらず、現代人はだれも悪魔など一向に信じていないのである。ボードレールの卓見<sup>1</sup>による最大の詭計<sup>2</sup>（きけい）はあたかも自分など存在していないように人間に思わせることだそうだが、A彼の詭計は現代では成功しているのかもしれない。

B、私の考えでは狡猾<sup>3</sup>（こうかつ）な悪魔は自分が存在していないように我々に思わせるだけでなく、もう一つの畏<sup>わな</sup>も仕掛けているようである。それは悪に対立する善の概念を混乱させることである。現代人に何が本当に善なのか、何が本当に正しいのか、わからぬようにさせることである。正しいことがいつか結果的には悪となり、善きことがやがて悪を生むという例をあまりに見すぎている我々は、やがて善に対して不信を抱き、善に対して迷いを抱きはじめる。それが悪魔がねらっている第二の詭計なのかもしれない。

それはともかく、今日、我々のまわりには自分が悪をなしていますなどとセンデン<sup>4</sup>する馬鹿はいない。すべての主義、すべての思想はそれぞれ自分の考えだけが正しく、善きものをもたらすと主張しているのだ。ハイジャックを行い、仲間をリンチで傷つける過激派の学生だって正義と善の旗じるしの下にそれらを行っているのだし、彼らが雪の山中に殺害した仲間の死体を埋める時でさえ、自分たちは正しいと信じて疑わなかった筈<sup>はず</sup>である。ながい間、アメリカ国民はベトナムでの戦い<sup>4</sup>が世界のための聖戦<sup>4</sup>であると考えていたし、少なくともその初期には自分たちが間違ったことをやっているとは思ひもなかったろう。彼らもまた善魔だったのである。善魔は現代の世界で至るところに見つけられる。

今日まで小説家やギキョク<sup>5</sup>家がこうした善魔を扱う場合のパターンはきまっていた。C グレアム・グリーンの『おとなしいアメリカ人』がそうである。サマセット・モームの『雨』を読むといい。フォークナーのある種の作品を開くといい。『おとなしいアメリカ人』では自分たちのミ<sup>6</sup>ガツテな善意がベトナム人にどんな不幸をもたらしているかに気づかぬ若いアメリカ人が描かれている。『雨』では一人の娼婦<sup>しょうふ</sup>をその罪から救おうとして彼女を逆に傷つけ、苦しめ、それに気づかぬ独善的な牧師が語られている。彼らは自分の主義、自分の宗教だけが正しいという優越感にかられているのだ。そして彼らはあまりに善意であるゆえに、おのれの心にひそむエゴイズムや優越感に気づかないのである。その独善主義のために他人

が傷つけられ、不幸になっていることにも無神経である。さらにその優越感がどんな不幸を自分と他人に与えるかもわかっていない。

一人よがりの正義感や独善主義のもつこの暗さと不幸は今日、私たちの周りで、さまざまな形で見つけられる。我々はそのような人を善魔とよぶ。

時には善魔たちが私たちに与える迷惑や傷は、それが 一 の旗じるしで行われるだけに、ほかの迷惑や傷より大きく、深い場合さえある。彼ら はいつも正義の旗じるしをかかげる。そしてそれに少しでも従わぬ者や、自分にくみしない者を悪の協力者と見なしてしまうのである。

こうした善魔の特徴は二つある。ひとつは自分以外の世界をみとめないことである。自分以外の人間の悲しみや辛さがわからないことである。モームの『雨』の主人公は、キリスト教の牧師だが、娼婦の悲しさも辛さも彼には理解できない。彼はただ娼婦という女への罪におののき、彼女にその罪を自覚させることが自分の義務だという信念からされる。そして、その義務感の裏に彼の優越感がひそんでいることを意識しないのだ。

善魔のもうひとつの特徴は他人を裁くことである。裁くという行為には自分を正しいとし、相手を悪とみなす心理が働いている。この心理のフケツ ツさは自分にもまた弱さやあやまちがあることに向に気づかぬ点であろう。自分以外の世界をみとめぬこと、自分の主義にあわぬ者を軽蔑し、裁くというのが現代の善魔たちなのだ。彼らは そのために、自分たちの目ざす「善」から少しずつはずれていく。自分自身でも意識しないうちに、彼らは他人からシジ シされる善き人ではなく、他人を傷つけ、時には不幸にさえする善魔になっていくのである。

(遠藤周作「善魔について」による)

問1 傍線部 a と e の片仮名の語を、漢字で書きなさい。

問2 空欄 A C にあてはまる語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

(同じ番号を二回以上選んではならない)

- ① たとえば      ② つまり      ③ だが      ④ なぜなら      ⑤ たしかに

問3 傍線部1「卓見」、傍線部2「詭計(きけい)」、傍線部3「狡猾(こうかつ)」の意味として適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

1 卓見

- ① ひねくれた見方
- ② 親しみやすい言葉
- ③ いつもの主張
- ④ 予想できなかった誤算
- ⑤ すぐれた考え

2 詭計(きけい)

- ① 他人をだますばかりごと
- ② 一人かの大ぼくち
- ③ 目的のはっきりしない計画
- ④ 幅広い知識
- ⑤ 矛盾に満ちたやり方

3 狡猾(こうかつ)

- ① 残忍で冷酷なこと
- ② 執念深く暗いこと
- ③ わるがしこいこと
- ④ 下品でいやらしいこと
- ⑤ 嫉妬深く陰険なこと

問4 空欄 [ ] には次に示したような漢字四字の語が入る。次の空欄 [ア]、[イ] にあてはまる漢字をそれぞれ一字ずつ書きなさい。

大  
ア 名 イ

問5 傍線部4「世界のための聖戦」とはどういうことか。これについて説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 世界を統一するという究極の野望による戦争であるということ。
- ② 世界を繁栄させるための必要悪としての戦争であるということ。
- ③ 世界を支配する神を決める宗教と宗教の戦争であるということ。
- ④ 世界を平和にするための正義に基づいた戦争であるということ。
- ⑤ 世界の構造を変えるための革命としての戦争であるということ。

問6 傍線部5「彼らはいつも正義の旗じるしをかかげる」とはどういうことか。これについて説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 善魔たちが、神の権威を使って、人々を自分たちの主張に従わせようとする事。
- ② 善魔たちが、いつも自分の行うことは、正しいと主張するという事。
- ③ 悪魔たちが、多くの人々を巧みにだまして、偽の正義に導くという事。
- ④ 悪魔たちが、人々の正義感を利用して、独善主義の不幸をもたらそうとする事。
- ⑤ 善魔たちと悪魔たちが、善悪の概念を混乱させるために、互いに正しさを主張し合うという事。

問7 傍線部6「彼の優越感」とあるが、これについて説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 自分は娼婦の哀しさや辛さに惑わされる人間ではない。
- ② 自分は娼婦を見捨てるような非情な人間ではない。
- ③ 自分は罪を犯す女のような愚かな人間ではない。
- ④ 自分は他人を裁くことしか考えないような冷酷な人間ではない。
- ⑤ 自分は娼婦の罪を裁くような高慢な人間ではない。

問8 傍線部7「そのために」とあるが、ここで「その」の内容に当てはまる語句を、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えなさい。

従来、文字は石や紙など必ずモノに刻まれた。したがって、一度書かれた文字の訂正には必ず痕跡が残る。この情報の物質性ゆえに、オリジナルのメッセージと、のちの訂正や改竄かいざんとははっきりと区別することができたのである。

しかし、コンピュータで扱われる電子テキストは、その存在のためになんらかの特定の物質を必要としない。A、きわめて高速で電話回線の流れたり、ディスプレイに表示されたり、ハードディスクに蓄えられたりする。今日の電子メディアの簡便性、経済性、効率性などは、まさに、この電子テキストの非物質性という特性に基づいているのである。

しかし、同時にそのために、モノに刻まれた文書に比べてきわめて不安定なものでもある。B、書き換えにイッサイ痕跡が残らないというのも、この非物質性という特性のゆえである。

ハッカー侵入相次ぐ中央官庁。公的機関のホームページ（HP）、書き換え被害数十件。十数年前、省庁などのサーバーコンピュータが不正に侵入され、HPが書き換えられる事件がヒンパンピンパンに起こった。

科学技術庁や総務庁（ともに当時）などの公式HPの文面が、何者かによって、勝手に書き換えられてしまったのだから事態は深刻で、新たなセキュリティ（保安対策）がカクホカクホでできるまで、HPの閉鎖を続けている省庁や、HPを閉鎖してしまった研究所もある。

この一連の事件は、明らかに書き換えられた痕跡が残っているという意味では、実は単純な事件であった。公式HPに不正に侵入し得たことを表明することが目的であったようだからである。

C、本当に問題なのは、痕跡を残さないような情報の書き換えの可能性である。D、文書中の、会合の日付を一日ずらしたり、合格者の受験番号を書き換える、といった外部からの悪意ある不正な書き換えが行われながら、その改竄の痕跡がイッサイ残らないために、情報発信者も受信者も、そのことにまったく気が付かないような場合である。

こう考えてみると、ネット上のあらゆる情報は、常に誰かによってコウミョウコウミョウに改竄されている可能性のある情報、ということになる。ネット上に情報を発信してしまったあとは、それが常に書き換えの危険にさらされていること、また、受信側も、それが発信されたオリジナルの情報とは限

らないことを承知すべきであること。このことを一連の事件は示唆してしまったのである。ネット上の情報は、いわば〈水に書かれた文字〉<sup>1</sup>のように、不安定ではかないものなのかもしれない。

これまで、私たちは〈文字〉が信頼に足る存在だと考えてきた。口頭での発言は、流動的で不確かであるのに対して、文字化されたものは、いわば〈動かぬ証拠〉として確実なものであると見なされてきた。

しかし、電子ネット上にある、流動的で簡単に姿を変えてしまう文字の存在を考えると、実は、文字や文書がそれ自体で確実なものだったのではなく、それが運ばれてきた紙というバイタイの物質的確実さによって、および、大量複製による遍在性<sup>2</sup>によって、確実なものであったにすぎないことが分かる。E、口頭の発言よりも、文書のほうが確実なものだという私たちの発想は、実はかなり時代制約的なものなのである。

グーテンベルク印刷術の発明は十五世紀の出来事だが、この発明によって、文字情報に権威と普遍的信頼性が与えられたのである。現代の文字信<sup>4</sup>仰を支えてきたのは、一度印刷されたら、永遠に同じことを主張し続ける印刷テキストの存在であった。

中央省庁HPハッカー侵入事件は、〈文字〉に対する私たちの無前提的信頼に、大きな疑問符をつきつけるものであったのかもしれない。

電子メディアは、表面的には、これまでの印刷文字文化をより効率的に推進する形でなぞっているように見えるが、実は、根本的なところでそれを裏切っているメディアなのではないだろうか。

(黒崎政男『デジタルを哲学する』による)

問1 傍線部 a、e の片仮名の語を、漢字に改めなさい。

問2 空欄 A、E にあてはまる語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

(ただし、同じものを二度以上選んではならない)

- ① たとえば
- ② しかし
- ③ つまり
- ④ また
- ⑤ それゆえ

問3 傍線部1「水に書かれた文字」とあるが、これと同じ意味になる部分を、本文中から十五字以上二十字以下で抜き出しなさい。

問4 傍線部2「遍在性」、傍線部3「時代制約的」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の各群の①～⑤のうちから一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

2 遍在性

- ① かたよって存在する性質
- ② 広く行きわたって存在する性質
- ③ 数多くの偽物が存在する性質
- ④ 安い価格で存在する性質
- ⑤ 人を惹きつける魅力で存在する性質

3 時代制約的

- ① 一時代を築いた代表的なものだったということ
- ② 時代という要素はあまり考える必要がないということ
- ③ 時代を変えた革新的なものだったということ
- ④ その時代の特別な条件にとらわれているということ
- ⑤ 各時代を超えて受け継がれていくということ

問5 傍線部4「文字信仰」とあるが、これについて説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 文字は、時間や空間を越えて不変であり信頼に足る確実なものであると、無条件に信じること。
- ② 文字は、発信者のオリジナルな情報を越えた普遍的信頼性があると、無根拠に信じること。
- ③ 文字は、情報の物質性を活かすことによって経済性や効率性を追求できると、勝手に信じること。
- ④ 文字は、改竄や訂正を許さない真実を示す正義のメディアだと、かたくなに信じること。
- ⑤ 文字は、科学の進歩によってより良いものに書き換えられていくと、単純に信じること。

問6 傍線部5「電子メディアは、表面的には、これまでの印刷文字文化をより効率的に推進する形でなぞっているように見えるが、実は、根本的なところでそれを裏切っているメディアなのではないだろうか」とあるが、「電子メディア」が「これまでの印刷文字文化」を裏切っているメディアであるという理由を説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 電子メディアは、これまでの印刷文字文化に比べてはるかに高度で専門的な科学技術の知識が必要だから。
- ② 電子メディアは、これまでの印刷文字文化には必要なかった保安対策をしなければ機能しないものであるから。
- ③ 電子メディアは、これまでの印刷文字文化によって築き上げられた文字への信頼を揺るがせるものであるから。
- ④ 電子メディアは、これまでの印刷文字文化が基礎としていた情報の流動性を失わせてしまう性質があるから。
- ⑤ 電子メディアは、これまでの印刷文字文化が作ってきた発信者の権威を失墜させる可能性があるから。

問7 次の①～⑤の中で、本文の論旨に合っているものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 電子メディアは匿名性が高く犯罪を誘発しやすいメディアである。
- ② 文字自体に普遍性や不変性という属性が賦与されている訳ではない。
- ③ ハッカーによってメディアにおけるセキュリティの概念が生まれた。
- ④ 電子的な文書はオリジナルの文書を経済的、効率的に改竄したものである。
- ⑤ 現代社会は電子メディア抜きには成り立たないほど高度に情報化されている。